



懸け橋

練馬区立石神井西中学校
学校だより 11号
令和2年3月12日
校長 松丸 晴美

「一期一会」

新型コロナウイルスによる感染症が百を超える国と地域で猛威を振っています。

2月27日(木)夕刻の衝撃の報道からある程度の予想はしていたものの、突然の臨時休校の決定に、驚きを隠せませんでした。翌28日(金)練馬区教育委員会からの通知が届いてから生徒が下校するまでの約2時間、保護者へのおたよりや連絡メールの作成、教職員への周知、宿題や課題の準備、図書室の特別貸し出し準備など、「せめてあと半日の猶予があれば・・・」と思いつつも、怒涛のように時間が流れていきました。

生徒には放送を通じて説明をしましたが、ショックのあまり涙を流す生徒もいたそうです。

3月は、一年間の学校生活のまとめの時であり、各クラスで力を合わせて取り組む最後の学校行事「合唱コンクール」が開かれる時でもあります。例年の「合唱コン」の感動が残る中で、3年

生の巣立ちを祝い送り出す「卒業式」へと続く一連の流れが突然断ち切られたことに、言葉では言い表せないほどの「無念さ」を感じ、茶道に由来する「一期一会」という言葉の重み(価値)を実感しました。

この一年様々な場面で、校訓である「叡智・健康・自治・共生」を具現化する姿を見せてくれた生徒たちには、卒業式や修了式で、頑張ったことや成長したことを「一期一会」の心もちで伝えたいと思っています。

保護者の皆様には、学校評価アンケート結果の説明やこの一年の教育活動に対するご協力に感謝やお礼の言葉を直接申し上げる保護者会をもつことが叶わないまま、今年度が修了してしまうことをとても残念に思っています。

いただいたご意見や評価を生かして、来年度も生徒たちのために、「チーム石西」の教職員一同「一期一会」の精神で本校の教育の質の向上・充実に努めて参ります。

〈令和元年度 生徒・保護者・地域代表者・教職員による学校評価アンケートまとめ〉

本校では、今年度の教育活動や目指す学校・生徒・保護者の姿、今年度の学校経営重点目標に沿って、生徒19項目、保護者22項目、教員26項目、地域関係者11項目について、(ア:とてもそう思う、イ:どちらかといえばそう思う、ウ:どちらかといえばそう思わない、エ:そう思わない)の4段階で12月～1月に評価を行いました。結果を集計し、ア・イの回答を肯定的評価と捉え肯定的評価の割合に注目し、

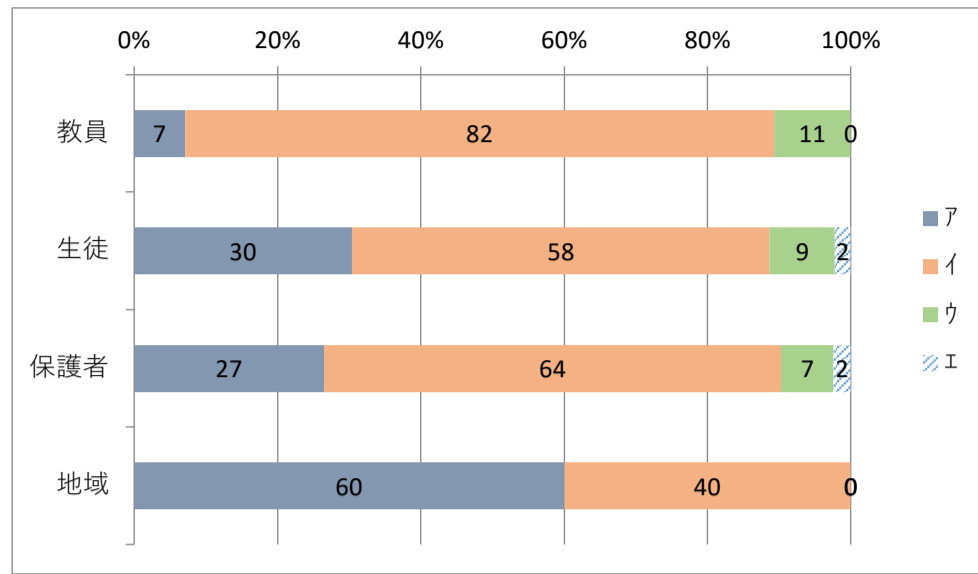
- ・80%以上の項目を A (目標が充分達成できている)
- ・80%未満 55%以上の項目を B (概ね達成できている)
- ・55%未満 40%以上の項目を C (達成がやや不十分である)

- ・40%未満の項目を D (達成が不十分である)として表記しています。

評価結果を学校関係者評価委員会において説明し意見を聴取するとともに校内企画調整委員会、各分掌・学年部会で分析を行い、評価A・Bの項目については次年度も継続した取り組みを進め、評価C・Dの項目については課題と捉え、具体的な改善策を策定して目標達成に向けて取り組んでまいります。

※単位は%です。(グラフは四捨五入して整数値で表記しています)

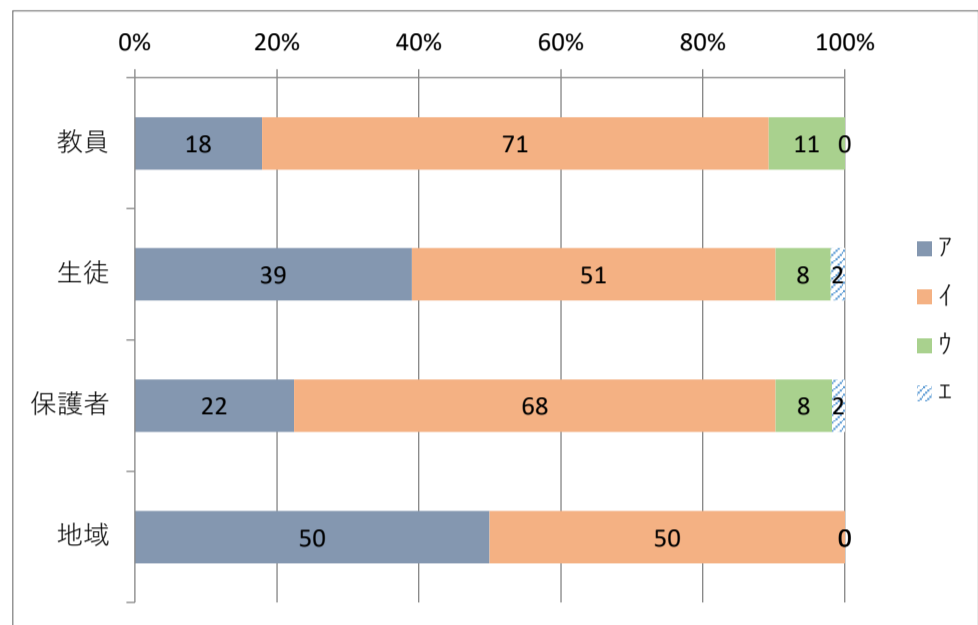
1 思いやりの心や相手の身になって考え、行動できること。



ア イ ウ エ

教員	7.1	82.1	10.7	0.0	今年度は、特に、教員と地域からの肯定的評価が増え、校内外において思いやりの言動がとれるようになってきているのではないかと考察できる。今後も引き続き、学校の全教育活動を通じて、相手の身になって考え、思いやりのある行動ができる生徒の育成に努めていく。
生徒	30.4	58.3	9.1	2.2	
保護者	26.5	63.8	7.3	2.4	
地域	60.0	40.0	0.0	0.0	

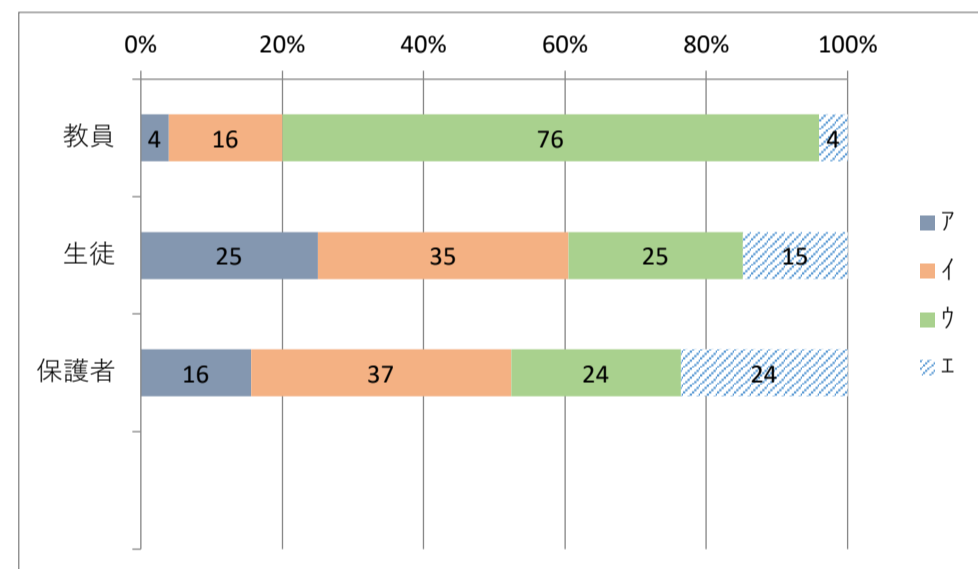
2 場に応じた言葉遣いや返事ができること。



ア イ ウ エ

教員	17.9	71.4	10.7	0.0	昨年に比較し教員の肯定的評価が増えているが、A評価の割合が保護者・生徒に比べ非常に少ない。生徒自身は気を付けているつもりでも、大人から見ると、気になる言葉遣いや返事が見られるということである。その都度、身近にいる大人が指摘し、場に応じた言葉遣いができるように指導していく。
生徒	39.0	51.3	7.7	2.0	
保護者	22.4	67.9	7.9	1.8	
地域	50.0	50.0	0.0	0.0	

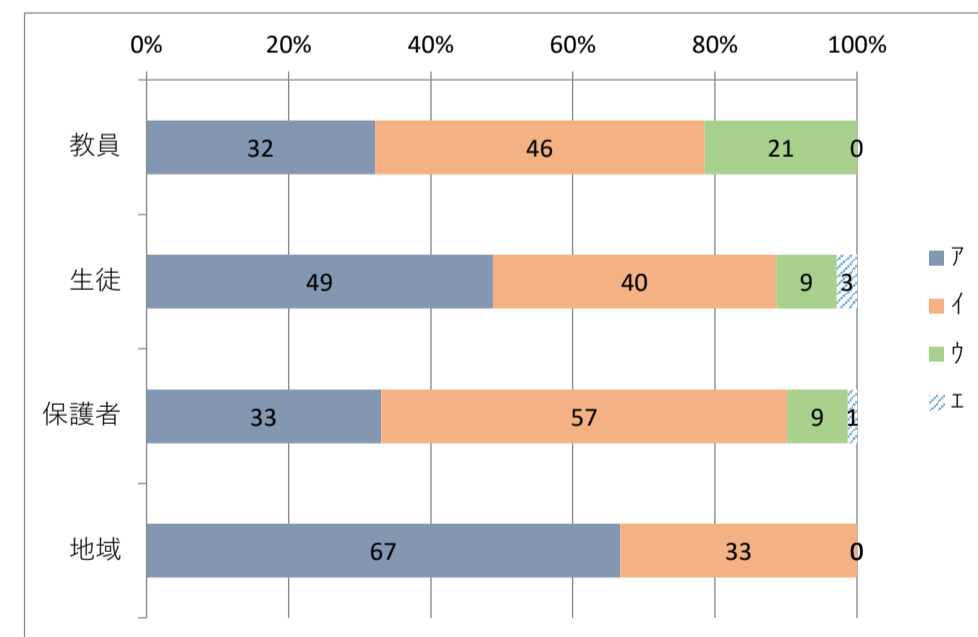
3 家庭学習の習慣を形成すること。



ア イ ウ エ

教員	4.0	16.0	76.0	4.0	教員と生徒・保護者の認識に大きな差が見られた。これは、教員は定期考査の結果などから家庭学習の習慣が身に付いていないと評価しているためと考えられる。家庭学習に関する実態調査を行い、その結果に基づいた指導が求められるが、学校の指導だけに頼らず、家庭でも習慣付けに努めてほしい。
生徒	25.1	35.4	24.7	14.8	
保護者	15.6	36.8	24.0	23.6	
地域					

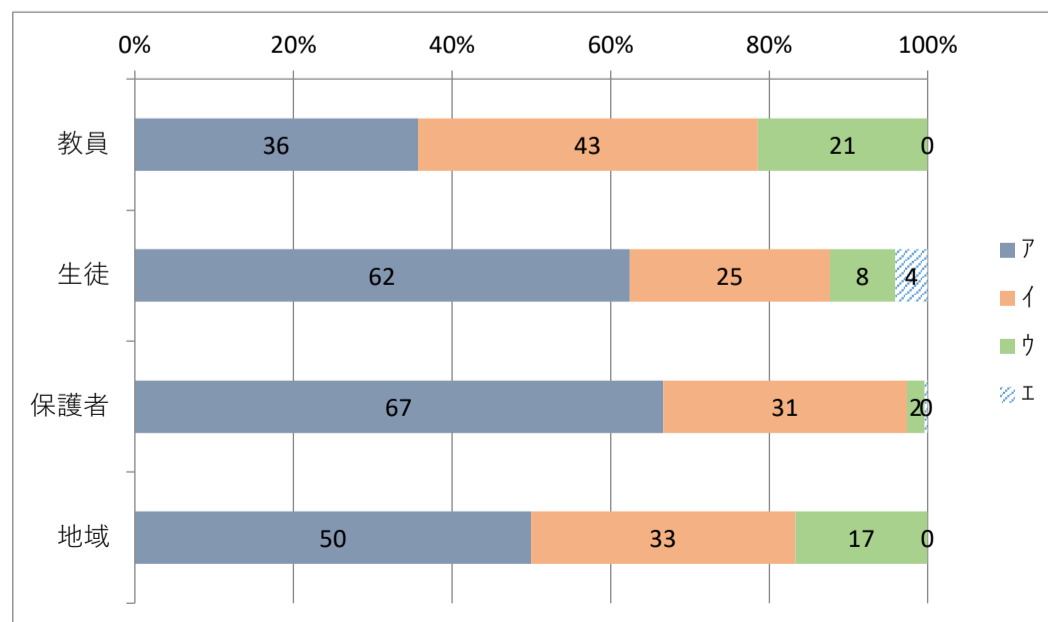
4 あいさつができること。→声に出す。無号令でおじぎ、授業始終の礼。



ア イ ウ エ

教員	32.1	46.4	21.4	0.0	ここ数年、あいさつについては肯定的な評価が年々多くなっている。特に地域の方の肯定的数字が高いのは、外部から来校される方々へのあいさつができるようになってきていると言える。誰にでも自分から、そして場に応じた質の高いあいさつができるよう、今後も指導を続けていく。
生徒	48.8	39.9	8.6	2.8	
保護者	33.0	57.1	8.5	1.3	
地域	66.7	33.3	0.0	0.0	

5 バッチを毎日着用すること。

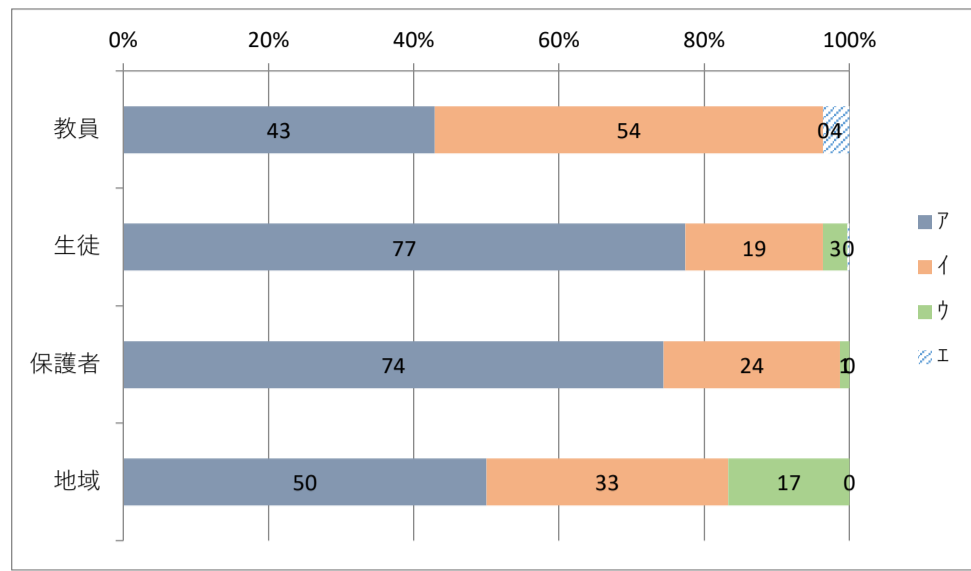


ア イ ウ エ

教員	35.7	42.9	21.4	0.0	教員と、その他三者の数字に差がある。学校に来てから、注意をされてバッチを付ける生徒が多く見られるため、このような結果になっているものと考えられる。自ら意識して気付けるよう、指導を繰り返していく。
生徒	62.4	25.3	8.2	4.1	
保護者	66.6	30.8	2.2	0.4	
地域	50.0	33.3	16.7	0.0	

6 式服・体育着について、きちんとした着こなしができること。

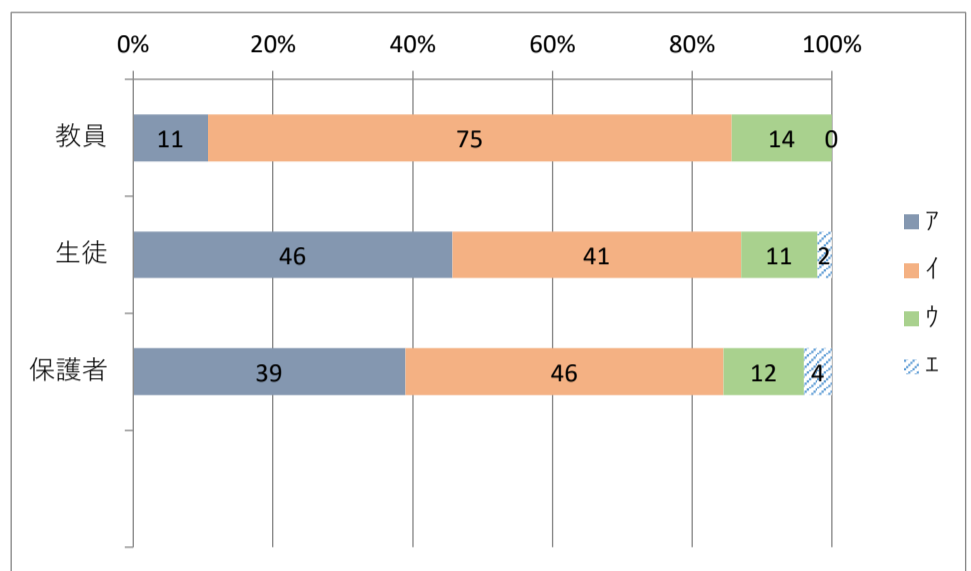
ア イ ウ エ



教員	42.9	53.6	0.0	3.6	式服・体操着の着方については、しっかりと着用できる生徒が多く、最近では、皆が同じ着方で着る式服や体操着よりも、自分で選んで着てくる私服で声をかけられる生徒が多い印象である。どのような服装でも、時と場にあった服装が自らできるよう、指導をしていきたい。
生徒	77.4	19.0	3.3	0.3	
保護者	74.4	24.3	1.3	0.0	
地域	50.0	33.3	16.7	0.0	

7 時間を守ること。→授業、朝礼、集合。

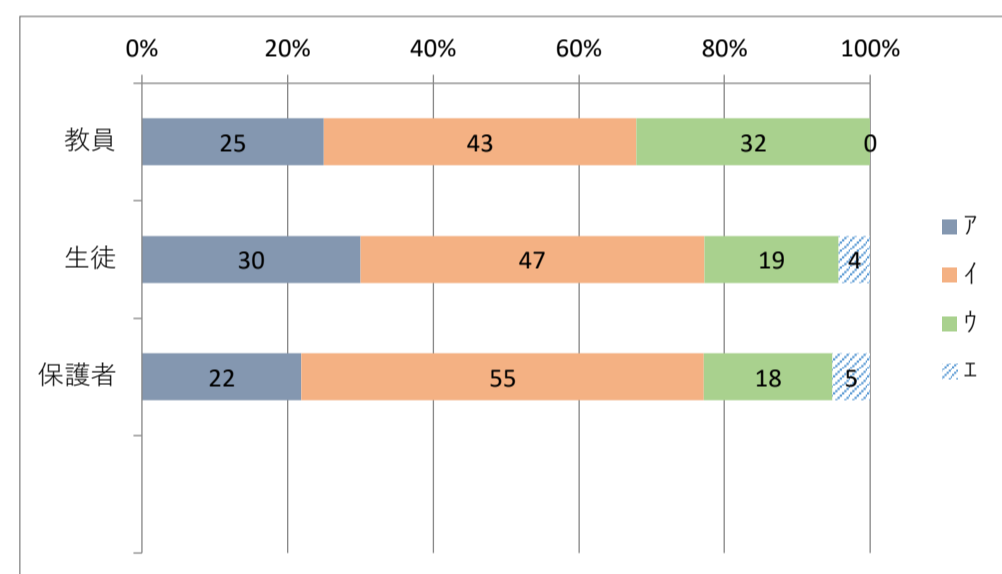
ア イ ウ エ



教員	10.7	75.0	14.3	0.0	授業時のチャイム着席や全校朝礼の集合など、時間を守って行動しようとする姿が見られるようになっている。一方で、チャイムが鳴る前の授業準備がなされていなかったり、時間に間に合ってもチャイムと同時に朝礼が始められることはまだ少なかった。時間前集合ができるよう継続して呼び掛けていく。
生徒	45.7	41.3	10.9	2.1	
保護者	39.0	45.6	11.5	4.0	

8 話を聞く態度を素早く整えること。→私語をせず待つ。無言で話を聞く。

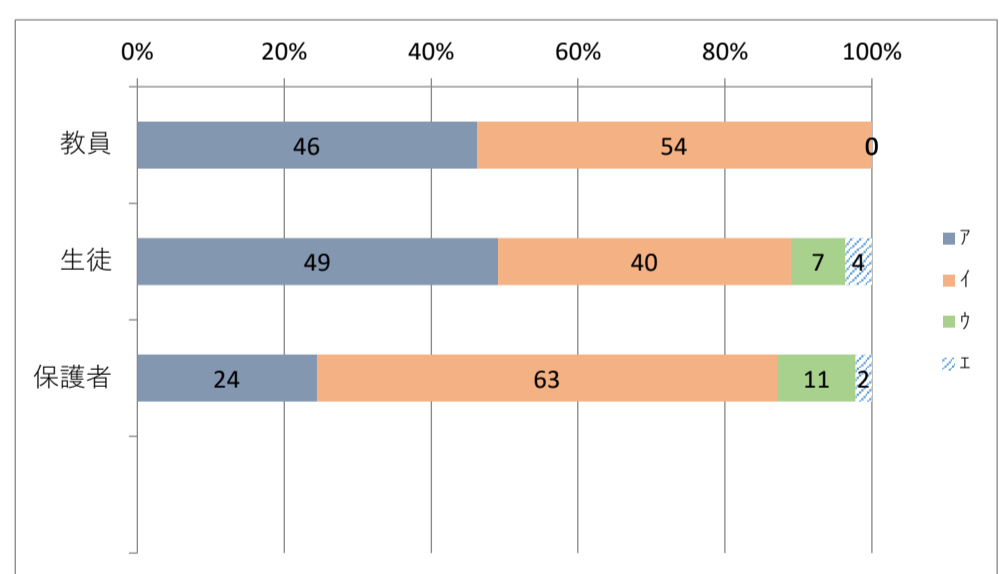
ア イ ウ エ



教員	25.0	42.9	32.1	0.0	昨年度に比べ、肯定的評価は増えているが、「急いで」の声とともに体育館にかけこむ生徒もいる。教員や学級委員が「静かに」と言わなくても自然と話を聞く姿勢はできている。特に避難訓練時の態度は素晴らしい。時間ギリギリに駆け込む生徒はほぼ固定化しているので、粘り強く声掛けをしていく。
生徒	30.0	47.2	18.5	4.3	
保護者	21.9	55.2	17.6	5.2	

9 障がい者スポーツの体験・理解を深めること。

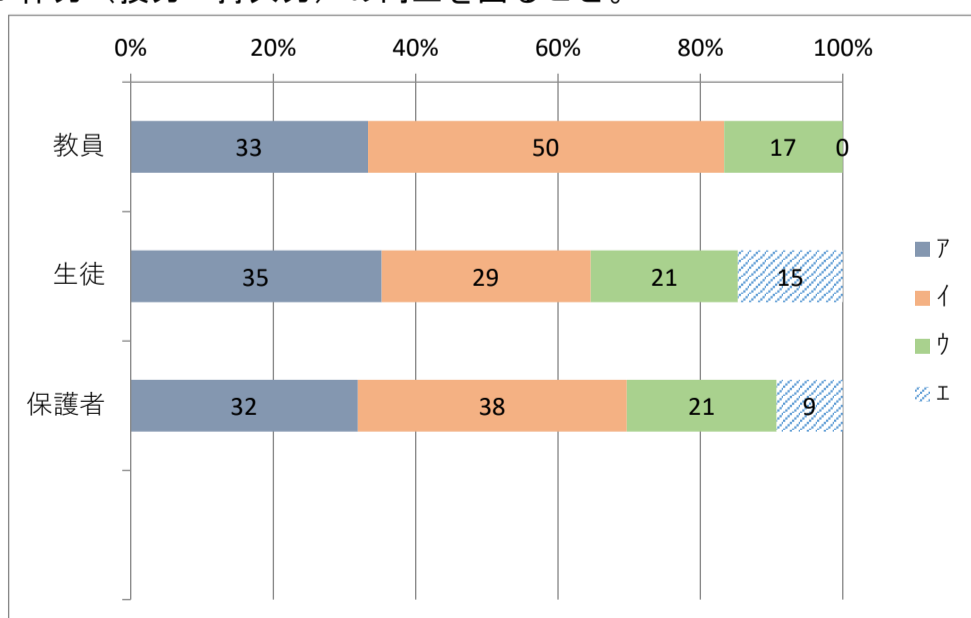
ア イ ウ エ



教員	46.2	53.8	0.0	0.0	昨年度に比べ、生徒・保護者のA評価がかなり増えた。義肢装具士講演やボッチャパラリンピアン講演・体験など充実した活動を行うことで生徒たちへの意識は高まった。取組については、ホームページや学校だよりで発信はしていたが、どうしても特色ある教育活動について保護者の認知度が低くなる傾向にある。
生徒	49.1	39.9	7.4	3.6	
保護者	24.4	62.7	10.6	2.2	

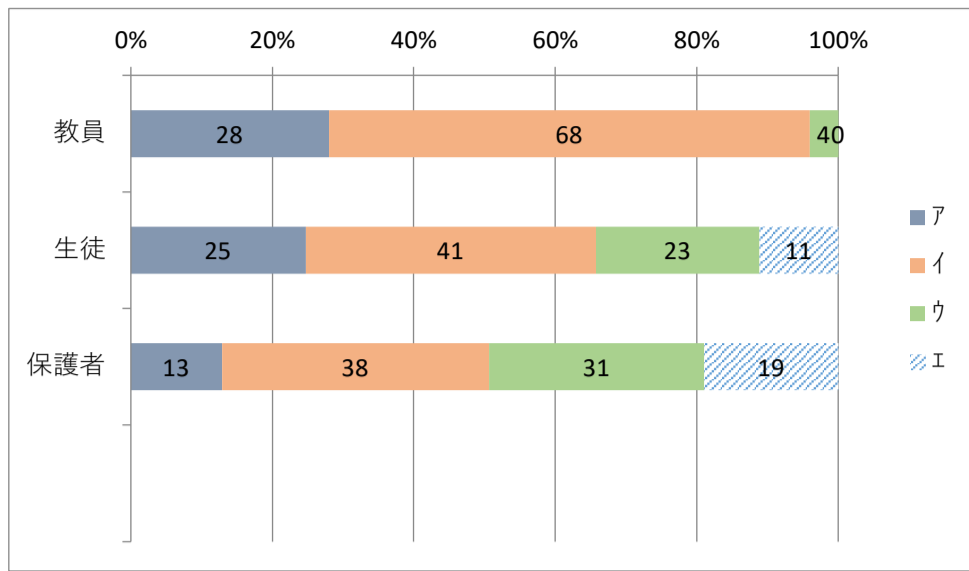
10 体力（投力・持久力）の向上を図ること。

ア イ ウ エ



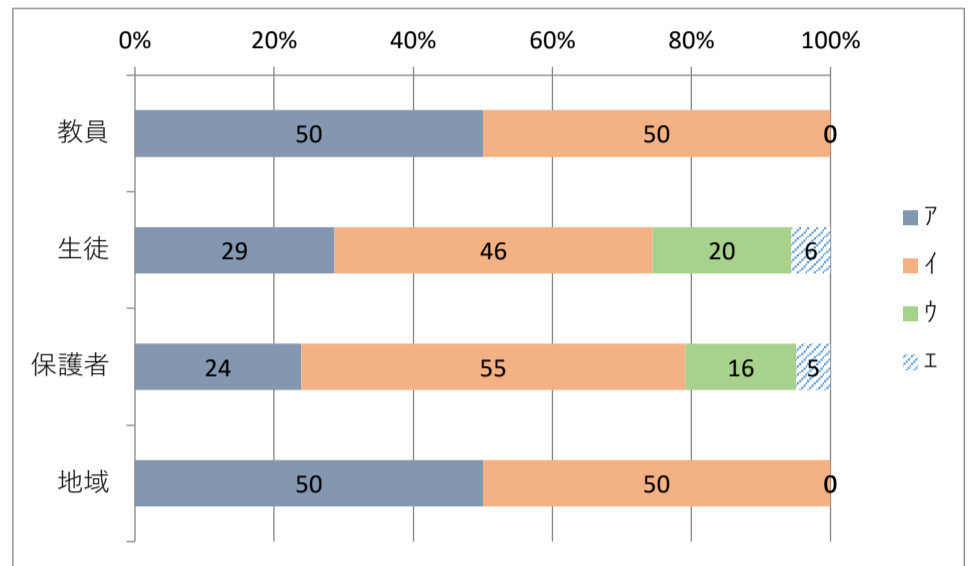
教員	33.3	50.0	16.7	0.0	体力向上に関しては、教員の意識と比較すると、生徒・保護者の肯定感がやや低い。持久力を高める運動は3学期に行うことが多いので、年間を通してうまく取り入れることで、生徒や保護者の意識も変化する可能性がある。投力についてはどの単元においても身体全体の使い方（巧緻性）と合わせて指導していく。
生徒	35.2	29.4	20.7	14.7	
保護者	31.9	37.8	21.0	9.3	

11 英語でのコミュニケーション意欲を高めること。→ALTなどの活用。実践的な英語活用能力を向上させること。



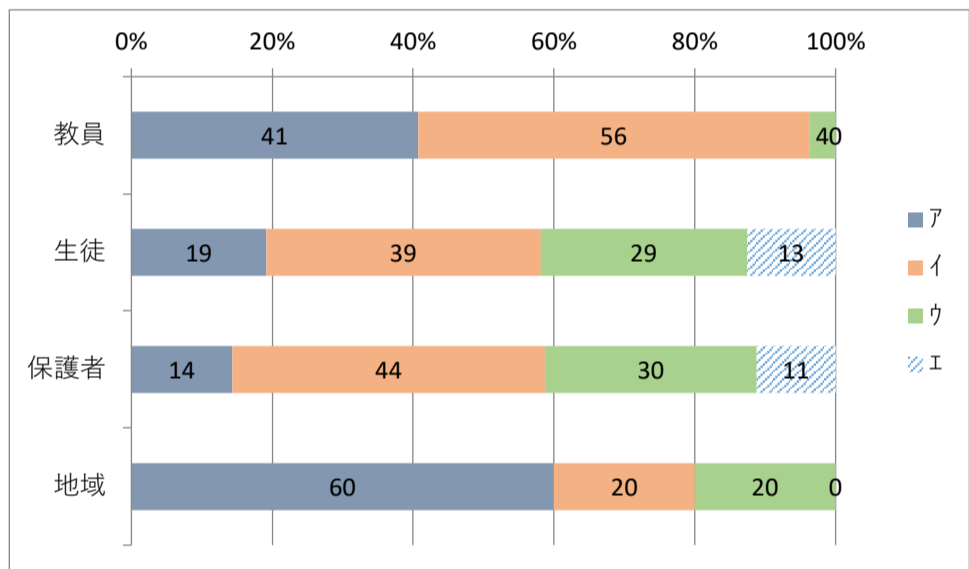
	A	I	U	E	
教員	28.0	68.0	4.0	0.0	昨年度に比べ、A評価が増えている。今年度ALTの教員が変わり、休み時間等でもよく生徒と会話している姿が見られたことも影響していると考えられる。今後も授業での実践的な英語の活用に加えて日常的に積極的に英語を使う機会を多くもたせ、英語でのコミュニケーションへの達成感を高める指導を心がけていく。
生徒	24.7	41.0	23.1	11.1	
保護者	12.9	37.7	30.5	18.9	

12 生徒会活動・学校行事などを通して、自主性や責任感を伸長すること。



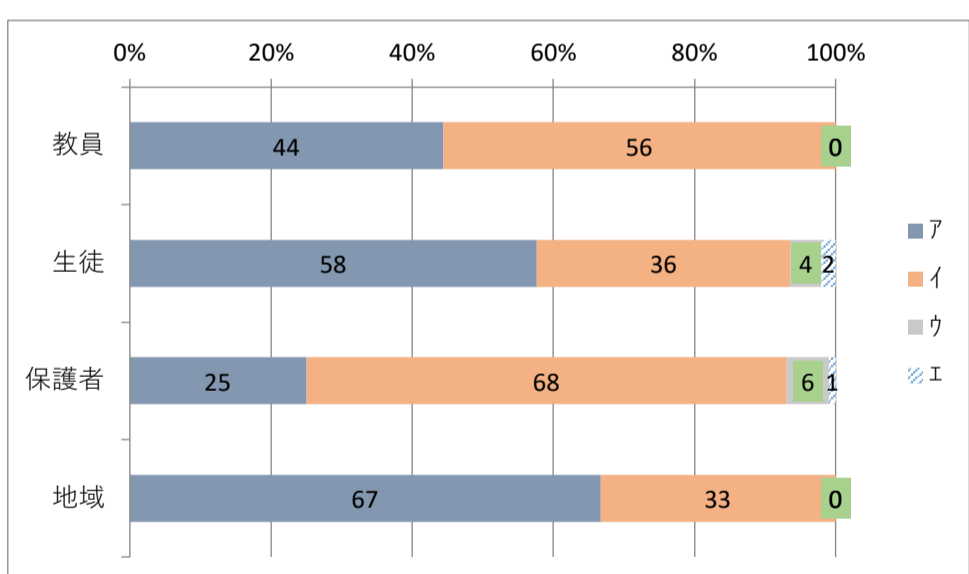
	A	I	U	E	
教員	50.0	50.0	0.0	0.0	今年度も生徒会役員をはじめ、各委員会を活発に活動させることができた。学校行事や生徒会活動に、生徒は責任をもって取り組むことができた。そのせいか、教員のA評価が倍増した。今後も生徒一人一人が、自主性をもって活動することのできる環境づくりを引き続き行っていく。
生徒	28.7	45.7	20.0	5.6	
保護者	23.9	55.2	16.0	4.9	
地域	50.0	50.0	0.0	0.0	

13 青少年赤十字活動を理解し、ボランティア活動・体験などを行い、社会に貢献しようとする意欲や態度を醸成すること。



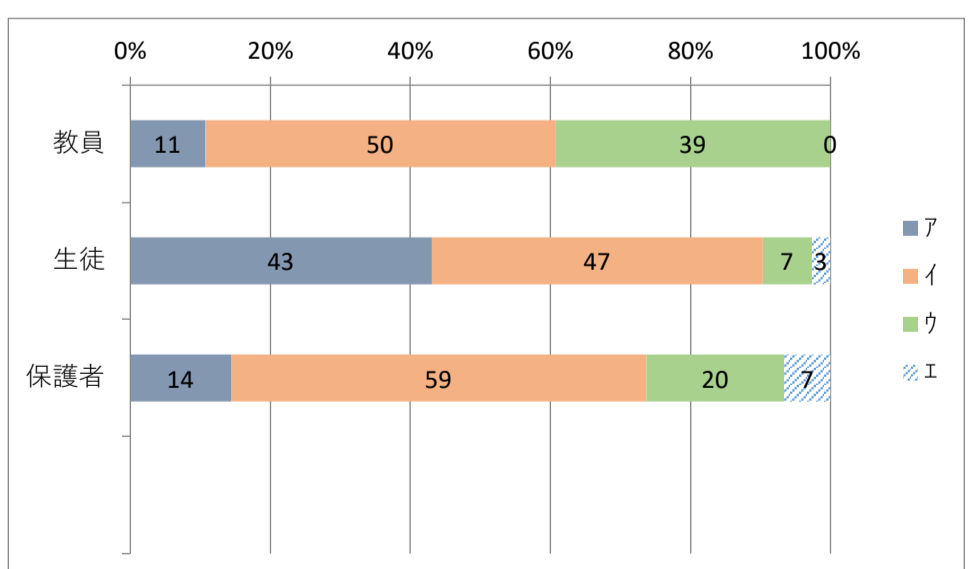
	A	I	U	E	
教員	40.7	55.6	3.7	0.0	昨年度と比べ教員の肯定的評価は増したが、生徒・保護者の評価が低くなった。JRC委員会を中心にボランティア活動・体験は多く企画し、生徒の参加も多かったが、「青少年赤十字」というなじみのない言葉で質問したために、このような結果になったと考えられる。
生徒	19.2	38.9	29.3	12.6	
保護者	14.4	44.4	30.1	11.2	
地域	60.0	20.0	20.0	0.0	

14 ルールやマナーを守ろうとする心や態度を育てること。



	A	I	U	E	
教員	44.4	55.6	0.0	0.0	結果の通り、ルールやマナーを逸脱するような生徒はほとんど見られない。各学年課題はあるものの、その都度学年の教員を中心に指導している。保護者や地域の方とも協力をしながら、校内外でルールやマナーを守る生徒を育てていく。
生徒	57.7	35.9	4.4	2.0	
保護者	25.0	68.1	6.0	0.9	
地域	66.7	33.3	0.0	0.0	

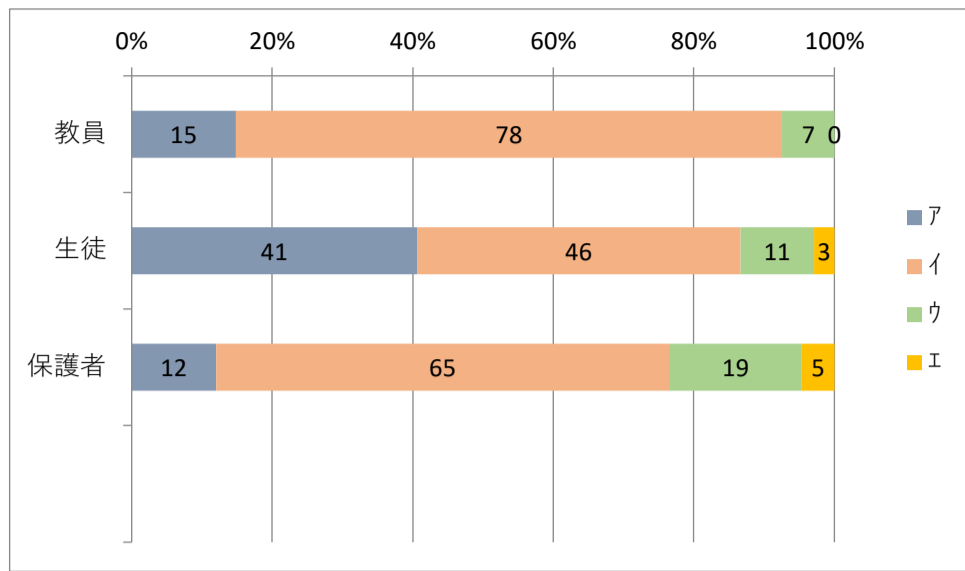
15 補充指導や基礎・基本の確実な定着を図るための指導を行うこと。



	A	I	U	E	
教員	10.7	50.0	39.3	0.0	補充指導の機会はあるが、部活動や学習塾などと日程が重なり、参加できない生徒も少なくない。行事予定を工夫するなどし、より参加しやすい日程を設定する。基礎・基本の定着を図るための指導は、各教科で工夫して実践している。各種学力調査の結果を分析し、よりよい指導を模索していく。
生徒	43.1	47.2	7.0	2.7	
保護者	14.4	59.3	19.7	6.6	

16 思考力・判断力・表現力を高める授業を行うこと。

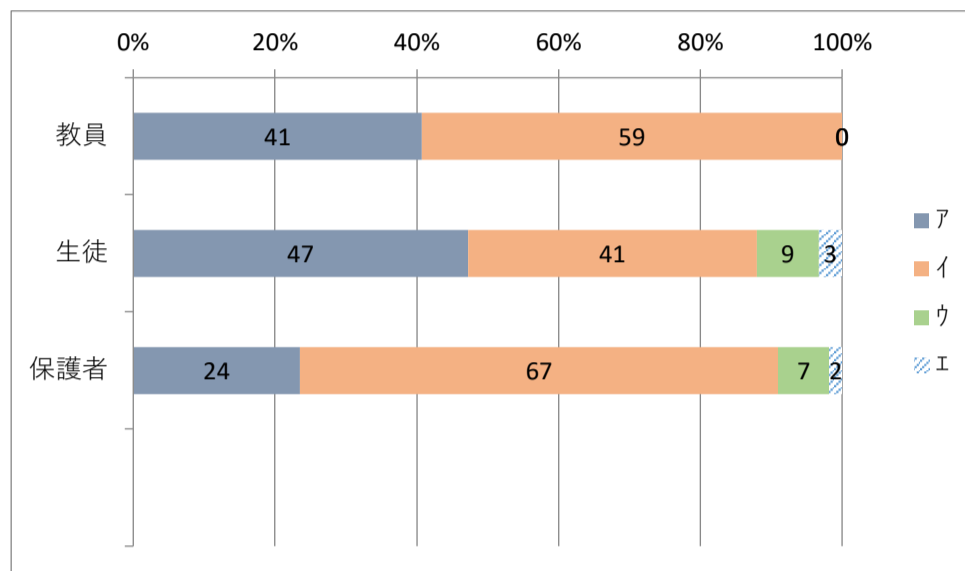
ア イ ウ エ



教員	14.8	77.8	7.4	0.0	概ね良好な結果となっているが、新学習指導要領の完全実施に向け、思考力・判断力・表現力を高める指導法を検討していく。次年度も「生徒授業アンケート」を活用しながら、授業改善に取り組む。
生徒	40.6	46.0	10.5	2.9	
保護者	12.0	64.5	18.9	4.6	

17 オリンピック・パラリンピック学習を推進し、日本及び他国の理解、人・文化・伝統等を尊重する態度や心を育成すること。

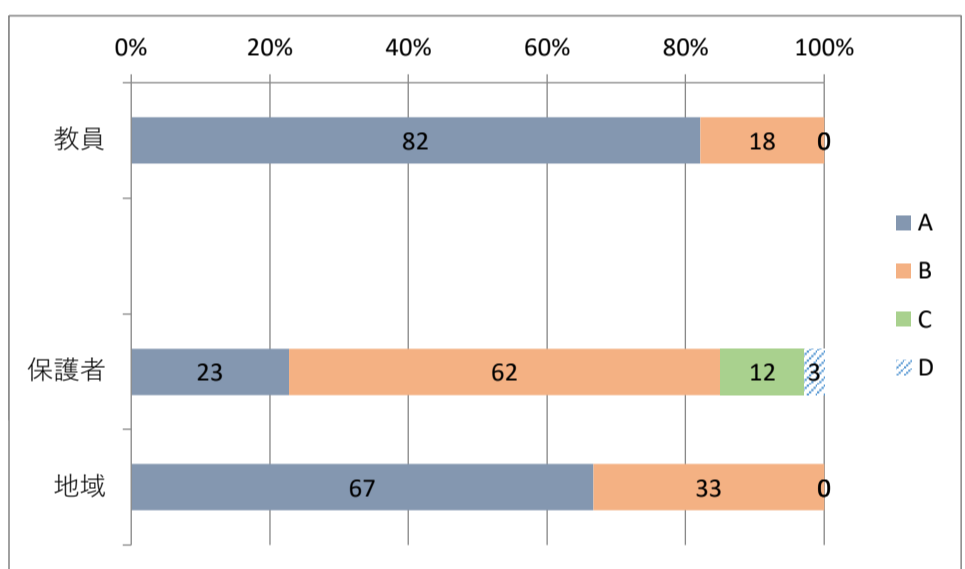
ア イ ウ エ



教員	40.7	59.3	0.0	0.0	着付け体験や和菓子作り体験など、日本の伝統文化に触れる機会を多く設けた。他にもアラブ首長国連邦の中学校との交流など、充実した体験ができた。保護者の肯定的評価が低い。ホームページや学校だより等で情報提供しても閲覧しなかったり手紙が届かない家庭には、どのように周知すればよいか課題である。
生徒	47.2	40.8	8.7	3.3	
保護者	23.5	67.4	7.2	1.8	

18 ホームページや学年だより等による広報を適切に行うこと。

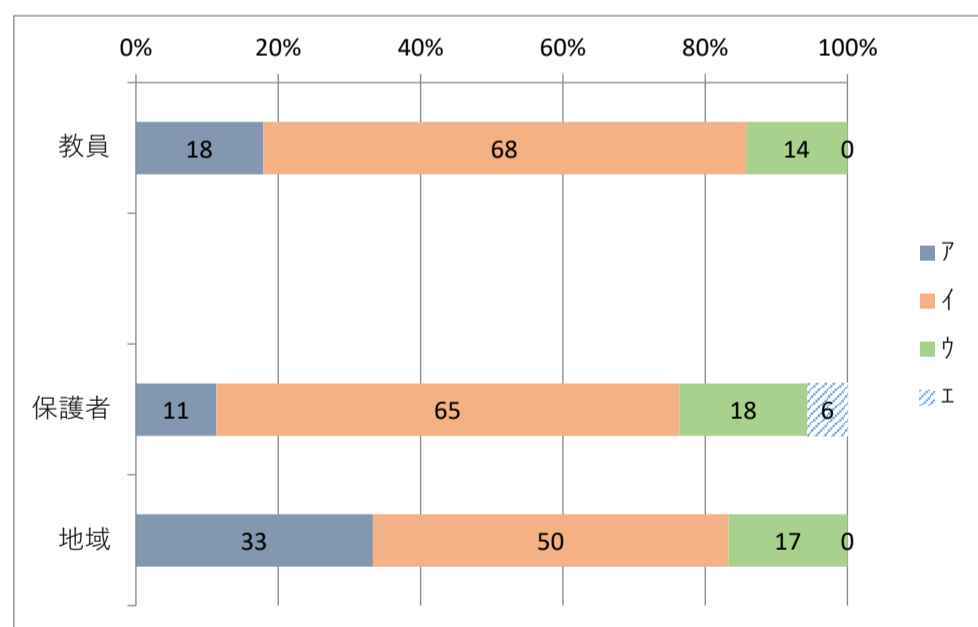
ア イ ウ エ



教員	82.1	17.9	0.0	0.0	概ね適切な広報活動を実施することができている。一部の保護者の求める情報は、個人情報等が含まれており、学校が考える広報と食い違いがあることも否めない。教育活動については今年度は、担当者が変わり、ホームページの更新頻度が低かったため次年度改善していく。
保護者	22.8	62.3	12.2	2.8	
地域	66.7	33.3	0.0	0.0	

19 ユニバーサルデザインに配慮した校内掲示物や教室環境の整備を行うこと。

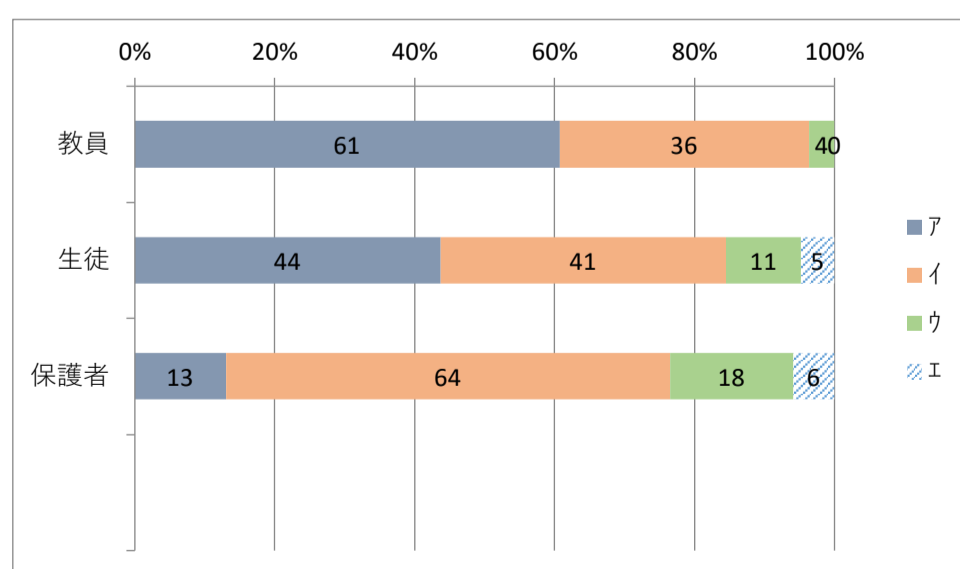
ア イ ウ エ



教員	17.9	67.9	14.3	0.0	三者ともに肯定的な意見が多い。4月当初にユニバーサルデザインについて、説明不足のところがあり徹底できていないところもあった。来年度は4月当初に説明をして徹底していきたい。
保護者	11.3	65.1	18.0	5.6	
地域	33.3	50.0	16.7	0.0	

20 生徒理解と適切な支援、スクールカウンセラーや関係機関との連携を図ること。

ア イ ウ エ



教員	60.7	35.7	3.6	0.0	今年度は特別支援教室やプレップ教室の新たな取組を実施し、教員の肯定的評価が増加した。一方で、保護者のスクールカウンセラーとの相談は予約が多く、週1日では要望に応じられない実態がある。また、同じ保護者が継続して予約するため、新しい相談者が入りにくいことも課題であるが学校だけでは解決できない。
生徒	43.7	40.8	10.7	4.8	
保護者	13.0	63.5	17.6	5.9	

目標がその日その日を支配する

1 学年主任 古賀 旭

例えば、50m走を計測する時。必要なのはスタートの前に、ゴールの位置を確認し、フィニッシュをイメージすること。足元ばかりを見て走っている、気づいた時には蛇行したり、ペース配分を誤ったりしているかも知れない。つまり、目標が大切だということである。今年1年間の目標は、「基本的な生活習慣を確立する」、「社会や集団のルールを理解し、規則正しい生活をする」、「積極性や粘り強さを大切にすること」、「思いやりを大切にすること」、「違いを認め、助け合い、協力すること」だった。どの位達成できただろうか？時間に対してルーズになったり、友人を傷つけたりした場合は、強く叱ることもあった。そこには、みんなに「こうなって欲しい」という学年教員の強く、熱い、「願い・想い」があったことを忘れないで欲しい。4月の入学から振り返ると、多くの生徒がたくましく成長した。才能にあふれ、元気で、人懐っこく、パワーある1学年のことが大好きである。君たちのことをこれからも我が子のように大切に、共に歩んでいきたい。1年間ありがとう。がんばろう、太陽の学年！

最後の行事になったスキー教室

2 学年主任 志村 美智子

1年間、お世話になりました。日頃より、保護者のご理解ご協力には本当に感謝しております。ありがとうございます。

2年生は、運よく新型コロナウイルス対策直前にスキー教室に行くことができました。軽井沢では雪（パウダースノー）にも天候にも恵まれ、最高の体験をすることができました。また、生徒たちもとても頑張り、スキー実習では最後まで誰一人リタイアすることなく、めきめきと上達しました。そして、夜のレク大会は自分たちで企画運営し、みんな上手に楽しんでいました。もちろん、先生方も楽しませてもらいました。カメラマンさんが、今年のレク大会は「いつもと趣向が違って面白いですね。」と褒めてくださり、2年生の成長を感じることができ嬉しくなりました。

この調子で、あと2ヶ月と迫った修学旅行を成功させ、さらに進路も自分たちの手で着実につかみ取って行ってほしいです。そのために我々教員も一丸となって協力します。共にがんばりましょう。来年度もよろしく願います。

「砂糖と食塩」

教務主任 白川 恒

私の担当教科は理科です。中学1年生の理科で学習する“身のまわりの物質”の単元に、「白い粉末を見分ける」という内容があります。白い粉末…。何か怪しい雰囲気が漂ってきそうですが、砂糖と食塩に代表されるように、身のまわりには白い粉末が結構あります。家庭では小麦粉や片栗粉、重曹、クエン酸、寒天粉など。また、教室のチョークの粉、理科室の薬品棚を見れば、白い粉末のオンパレードです。

この単元の学習は、科学で言うところの定性分析（ある試料にどんな成分が含まれているかを調べること。）に相当するものですが、目の前に白色の粉末AとBがあり、一方が砂糖で他方が食塩である場合、皆さんはどのように分析して見分けますか？

最も簡単な答えは、おそらく粉末を「舐める」。その結果、甘かったら砂糖、しょっぱかったら食塩と答えを出すことでしょう。中学1年生の理科では、「砂糖は有機物であり、有機物は炭素を含むため、熱するとこげる。」という知識と、熱する技として、ガスバーナーの使い方を習得することができます。これを活用すると、粉末AとBをガスバーナーで熱して、こげた方が砂糖であるという「舐める」以外の方法で調べることができるようになります。つまり、習得した「知識・技能」を活用することで、新たな解決策を見いだすことができるようになるわけです。

今まで遭遇したことのない課題に対して、身に付けた「知識・技能」を道具として活用し、皆で協働しながらその解決を目指すことがより一層重視される時代。そのような時代を生きる「すべ」を子どもたちに育むことが今、求められています。

本校でも新しい時代を生きる生徒を育むべく、2021年度から始まる新しい学習指導要領への対応に向けて準備を進めています。次年度も引き続き学校運営にご理解とご協力をいただきますよう、お願いいたします。

日々の積み重ね

生活指導主任 佐藤 由乃

2月の避難訓練は、新型コロナウイルスの報道が大きく取り上げられつつある中での実施でした。本校では、この時の避難訓練は体育館への避難を想定していましたが、急遽校庭へと避難場所を変えての訓練としました。そんな中でも、本校の生徒は、その場の指示に瞬時に対応し、混乱することなく整然と避難訓練に取り組みました。日常の生活では、少しでも地震の揺れを感じると、校内放送や教員の指示がなくともさっと机の下に身を守る姿勢をとる生徒たち。月一回の避難訓練に、毎回真剣に取り組む生徒の積み重ねの賜物と感じます。行事で大きな力を発揮する本校の生徒たちですが、毎日の学校生活でも、委員会活動や当番活動、あいさつなど、小さなことにもしっかりと取り組む力がついています。

一年間、大きな事件・事故なく、学校生活を送ることができたのも、地域、そして保護者の方々の協力があったからこそと感じました。本校の一年間の教育活動へのご理解とご協力に、この場をかりて深く感謝申し上げます。

一日も早く、学校に子どもたちの元気な声と明るい笑顔が溢れる日がくるようにと願っています。

受験を終えて

生涯学習部主任 近藤 美咲

無事、卒業式までに3学年全員の進路先・就職先が決まりました。都立校一次入試の合格発表日から休校となってしまう、結果発表後の生徒たちに直接声を掛けられなかったことが残念でした。しかし、生徒一人一人と電話でやり取りをする中で、どの生徒も結果に一喜一憂するだけでなく、卒業後のこれからの過ごし方を前向きに考えている様子が伺えました。「都立はダメだったけれど、私立に行ってトップを取れるくらい頑張る!」、「第一志望に受かったけれど、ついていけるか心配だから今のうちに勉強しておく。」、「4月から部活で活躍したいからトレーニングしておく。」など、こちらが心配しているよりもずっと生徒たちは気持ちを切り替えて過ごしていました。知らないうちに成長したのだなと嬉しく思い、ちょっと寂しくなりました。不安や焦りなど様々な感情を抱えながら乗り越えた受験期間は、生徒一人一人にとってどんな経験になったのでしょうか。どんな感想があったとしても、入試は、過去の自分の結果です。大切なのはこれからです。

保護者の皆様、進路選択にあたり各担任とのやり取りや書類の提出など、学校の進路指導にご協力いただきありがとうございました。

3年生のみなさん、ずっと応援しています。

1年を振り返って

3学年主任 野崎 秀太

共に過ごしてきた中学校3年間の生活がまもなく終わろうとしています。入学したときは、「まだまだ先に卒業がある」と思っていたのですが、振り返ってみるととても早く感じます。春の運動会で学校全体を引っ張る姿に逞しさを感じることができました。また、秋の修学旅行では班員と協力しながら3日間を過ごす中で協調と協力の大切さを学びました。そして卒業後の進路に向けて、自分自身と向き合ったことで、本当に成長しました。本来であれば、その成長した3年生と残り1か月の生活を共にしたかったのですが、今回の騒動でそれも叶わなくなってしまいました。しかし、この3年生たちであれば、強い意志をもってこれから生活してくれると確信しています。

3年生、卒業おめでとう。自分を信じて、これからの人生強く歩んでください。

今年1年間、そしてこの学年の3年間の教育活動にご理解、ご協力をいただきありがとうございました。PTA本部役員の皆様、学年委員の皆様、1年間ありがとうございました。

お子様のますますの成長とこれからの活躍をお祈りしております。

■生徒の活動記録■

卓球 ●第 38 回練馬区学年別卓球大会 (2/11)

- 1 年男子シングルス 第 3 位 山口 真幸
第 5 位 井手 琳太郎
1 年女子シングルス 第 1 位 松下 寛奈

●独立行政法人国際協力機構主催国際協力中学生・高校生 エッセイコンテスト 2019

- ・学校賞受賞
- ・青年海外協力隊東京 OB 会会長賞 吉田 梨玖



●防災ノート活用促進月間「防災標語コンクール」

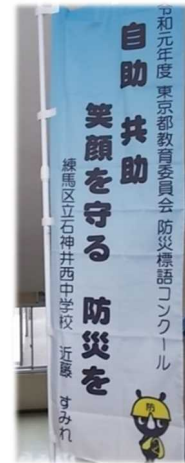
東京都教育委員会主催

近藤すみれ 「自助 共助 笑顔を守る 防災を」

●令和元年度練馬区教育委員会児童生徒表彰者

練馬区教育委員会は、文化・芸術およびスポーツ活動等の分野で
顕著な功績を収めた児童・生徒を表彰しています。今年度は 5 名の
生徒が受賞しました。

- ・白坂 親正 (水泳で優勝な成績)
- ・釣谷 颯大 (水泳で優秀な成績)
- ・川村 碧子 (卓球で優秀な成績)
- ・金澤 憧歩 (スケートボードで優秀な成績)
- ・清田 波琉 (書道で優秀な成績)



●第 67 回練馬小中学校連合書きぞめ展出品

- 1 年生 八田 夏楓、山内 遥花、近江 正義、藤田 羽音
2 年生 藤井 陽希、古川 恵、川口 結愛、宮川 琴音
3 年生 八田 美桜、瀬戸 彩可、中田 愛那、有田 紗梨

重要 1, 2 年生保護者様へ 学校連絡メールの年度更新方法についてお知らせ

今年度「学校連絡メール (緊急一斉メール連絡網システム)」へ登録されているデータは、今回の臨時休業を受けて、4 月以降の春休み期間中もメール配信できるようになりました。新学期が始まりましたら、令和 2 年度用の登録手順書を配布いたしますので、改めて新クラスで登録をお願いいたします。これまでの情報はオールリセットされますのでご注意ください。兄弟姉妹が西中に在学している場合は各人の分を登録することになります。

学校連絡メールは、緊急時の連絡手段として使用します。学級連絡網は作成していませんので、全家庭で登録にご協力ください (一家庭で 2 件まで登録可能です)。機器がないなどやむを得ない事情で登録できない方は、学級の保護者間のつながりで情報が得られるようお願いいたします。